

中村俊定文庫
文庫 18
1037
2





つれく癖川事



建仁寺此陀羅尼。さうぬ表もねく大和
橋の石かきやままでのと。だ、通ふやまひこ
かりりらささこもこねるべし。はまことい
ふかりし海記とくらなむねごととて。七日
十日も居続けハ。吾ぬ宿もええす終て
阿いそのるるししそ多るべし。あぬ

丹波川

とうきせれしもの多ハ。まゝい何なるものじ
免と何きさうめ。かきしきあふん持のあをひ
たすれ福、そま味合何せ。そまはは
く、東起てわりものごころ小。茶ややど
久しうわりものハ何ド。屋敷方此書
わら切。店方の早酒賣すれもかぞし
茶屋の初夜ハ岩の夜半ころは。争
え扱、そうけようるべりき。はるご當世の

生睡あは。早うかつるバ初の水そえ未水し
と。扱もた、ぬ柑屋懐き。船運が来て
もまご合点でまご。祢むごうつてわり扱さ
はきて祢屋清ありのあさすわり。細飯ハ
二折茶屋此雑子焼。よざ祢ご小酒を
のこさうし、扱ゆんらふのときいあいまれ
豆腐の胸もさき。ふりちららうりこの
茶屋へまうしきご。そや西りるは日ヶ

脊戸かかろふ。湯の物乾小襦此何
〜 湯付のり〜 である。えんま。昔の
茶も食此泡をふちつてはたまめ
とらち〜 ころん。のら〜 こと。中戸は
りを何と這入ハ食桂のう〜 小膳乃
降て何れも。他な味〜 ころん。このなり

疵子ハ夢れりて〜 かくんと物好ハ

昔の〜 苗世ハ疵云りも夢るも。首此
りて〜 人半と柳。凡小糸みら此あ
〜 すすくても。耳のうし。湯小椀だこの
濃ぬるハ。そまが全盛此。なる〜 なるじ
さ。まを白人とい。つ。きん。なりも。むし。ら
疵云子とい。きん。もの。妓の。高貴。碧小
母らの縁仕入。を三弦も。ん。ん。て。り
新川。ほく。と。山。ニ。つ。つ。の。ま。ろ。も。の。小。て。後

是已此...
—



故曰此...
—



ハ度杯てまの果こ報りえくこ。おさ夜つ路んが洗り
茶茶舟舟の新い枕ままづ洗り茶茶舟舟とつつし。夜夜
向むの水み何なげぐん。ちちれももああおお夜夜のおおま
ささいいぬぬままして。ままささいいまま仲なふふももささぬぬくく何なり
ああのの出い合あ親お方かれれりりここみ。又又ハハ婦お子ご
洗し切きずずああずずぐぐ新してて志しててままもも有あり
むむ色いろままぬぬくくままんんせせ川がむむららむむてて志しててや
ああハハちちとと世やああののややふふももいいええれれどど。ままづ

室むろハ中ちゆう瞬しゆんのの粒りゅうのの水すいととつつ子こ所しよと
はは屋や一いつててのの半はんすすまま。ああここままののややああふ
ままづづ一いつちちさされれ新しん妓こうう洗せん茶ちや舟しゆうれれああり
ととつつ子ことと之これつつ子こがが身み極ごくれれ笑わらすすああるるややうう
おおぞぞぐぐかかここまましてしてややううるるままののままゆゆららととしし
ももううりりいいぬぬはは石いし瞬しゆんとともも。たたいいけけとともも
余あまははおおゆゆいいべべののああららかかしし。身みははおおれれ
屋やへへ赤あか茶ちやああててハハままんんとと志しげげののががんんああのの柳りゆう子こ

めうせうまふゆて下され。全^{ぜん}粹^{じゆい}さうひを
あなまきごと。さうい寶^{たから}じやういふこと
をうりて。ま^まハちちも凡^{つち}ぢりままの
懐^{なつか}いしやまの肝^{かん}心の悔^{くわい}日^ひあう。極^{ごく}まき
りよ時^{とき}をぬく。おしひご付^つくまじざ
るま。あつもあ^あちてま^まぬれ^れま^まま^ま
ハ極^{ごく}まきんこのつや。夕^{ゆふ}下^げふさあ^あま^ま
のとあつりま^まりま^まを平^{へい}樂^{らく}返^{かへ}てい^い

そし思^{おも}へともた^たい返^{かへ}もん^{もん}む^むな^なら^らじや
何^{なに}のま^まい^いろ^ろま^まさ^さう^うぬ^ぬのハ^ハま^まさ^さう^うさ^さう^うや^やつ^つま^ま
のか^かう^うれ^れと^とい^いま^ま後^ごう^う。今^{いま}夜^よハ^ハ是^{こゝ}北^{きた}ふ^ふい^いろ
祢^ねが^がま^まの^のぬ^ぬ。あ^あど^どく^く清^{きよ}も^も里^{さと}れ^れま^まひ
想^{おも}へ^へて^て蘇^そ子^しの^の江^え又^{また}ハ^ハ花^{はな}車^{ぐるま}が^が清^{きよ}と^とる
仲^{なかつ}人^{ひと}役^{やく}。ま^まが^が松^{まつ}樹^{じゆ}お^お恋^{こひ}ふ^ふか^かせ^せバ^バ二^に度^ど
め^めハ^ハも^もや^や次^{つぎ}の^の同^{どう}の^の屋^や敷^{しき}あ^あふ^ふ飯^いの^のた^たり
や^やふ^ふた^たら^らして^{して}口^{くち}説^{せつ}供^{くわう}商^{じやう}ひ^ひ。性^{せい}は^は道^{どう}ふ

かりることなりとぞらん也。さむしき舞を子
のをらし三弦の糸をてハ入葉と見く
はなぶき。舞を子に勝る引摺下弦のおと
ふし。ふむすこもかゝるは操出さるゝことぞ
誠めかするづさハこのまどひぬり。何ぞ
とやいひし葉門の葉をただん階子
の得小三弦の返てらるハ。余はあま
もき妻ぬおとやといひしこと。さむし

がえぬべし

日のた
あま

人の公迷をとし色欲ハ志うし。その
とや佐平治とや。さねそれくのより亦有
て仲浩のせりふ若はちのがり。中橋
の落涙まで。男ひくは色かせさ。さ
まじ色里に碓ハ葉代不昂。この
がまくと引摺ひさずり下弦。さむし

おは

となり出る口 挑灯ちやうてん 小いせさん
 何げますと。彼いの素ちや子こ果くだ木ぎ
 の祝あはれ美み多たくさくささに。何なにぐるま
 での徳とく取と渡わし。車くるまがさうさうづ小こ室むろへ
 おいでとあはれあはれこの身たみをさたけむ。チ、
 あんどあんどりふてりふて居いるまでまでが發はつ揚とんあふも
 又またさぬくの癖くせあつて。何なにくちやままし老おの
 む里むらいいち平たい樂らい男おとこ日ひ博はく。せりぬがり



癖くせ川がわ三さん

おいづね。長床。鼻のたこふまで。ふく
の憂。まどる。まどる。是。やどの。車。ハ。何
れ。お。う。ハ。ま。し。と。に。ほ。く。記。は。と。あ。と。り。ハ。
四季。折。れ。れ。や。く。そ。く。日。が。ろ。あ。る。と。ろ。ろ。が
あ。少。も。な。ま。じ。に。妹。分。の。引。ま。い。ほ。の。着。お
の。夏。冬。切。合。の。賞。吟。宿。や。中。右。白。
乃。男。の。心。ほ。け。髪。結。髪。う。ろ。梅。磨。か。ろ
小。間。お。屋。貸。中。屋。の。拂。ま。で。あ。め。ま。せ

ぬ。因。院。の。中。と。く。り。う。ろ。お。よ。ふ。い。ま。こ。と
お。り。あ。あ。で。も。無。ん。じ。と。い。ひ。出。と。と。た。小
む。雲。月。小。風。彦。八。が。柳。こ。ろ。ま。小。宿。律
う。れ。だ。ほ。お。う。う。く。と。も。い。ひ。出。さ。ま。こ。と。い
海。く。の。心。を。ひ。妓。の。心。を。う。ろ。と。十。人
が。十。人。う。れ。ら。ろ。し。ま。れ。ま。ら。ち。ま。こ。バ
お。ろ。か。か。か。し。ふ。も。い。ろ。り。因。院。の。病。で
引。く。店。て。も。夜。ま。さ。め。ろ。れ。お。見。也

懼^{おそ}き^こ怖^こむ^しといふものなり。若^{わか}か^から^らぬ^ぬの
ハ佛^{ぶつ}此^こ方^う便^{べん}。おと^{おと}流^りし^しこ^こもの^{もの}ハ^ハ妓^ぎの
実^まこ^この^の如^{ごと}く。この^{この}実^まも^も小^こ嗽^{そく}され^れぬ^ぬや^やも
さ^さら^ら先^ま瞬^{しん}此^こ方^う一^{いっ}物^{ぶつ}して^{して}瓶^{びん}ハ^ハ化^ける
もの^{もの}と^とい^いゆ^ゆ。嘘^{うそ}と^とい^いふ^ふ所^{ところ}ハ^ハ流^り分^{ぶん}を^を
ゆ^ゆさん^{さん}して^{して}瓶^{びん}か^かま^まさ^さり^りの^の如^{ごと}く。さ^さつ^つ子^こ
の^の嘘^{うそ}ゆ^ゆと^とい^いふ^ふは^はお^おや^やま^ま小^こ実^まに^にる^る津^つを^を
懼^{おそ}き^きさ^さる^る人^{ひと}ハ^ハい^いは^はき^きと^と五^ご味^みなり。い^いま^まし^し

仙人^{せんじん}とい^いり^り々^々名^な茶^{ちや}の^の祝^{いわ}仁^にハ^ハ女^に此^こ脛^{けい}の^の
白^{しろ}さを^をか^かん^んて^て通^と流^りし^しな^なひ^ひらん^ん。そ^そき^き
さ^さ一^{いっ}白^{しろ}ひ^ひな^なと^とお^おか^かり^りれ^れもの^{もの}な^なる^るも^もを^を
う^うし^しと^と不^ふ算^{ざん}は^はお^おき^きむ^むし^しれ^れ海^{うみ}。今^{いま}時^{とき}
野^や音^ねと^とち^ちや^や小^こ息^{いき}子^こ。妓^ぎの^の足^{あし}の^の白^{しろ}い
う^うか^かく^く。通^との^のた^たん^んう^うら^らし^しと^と跡^{あと}も^もあ^あり^り
もの^{もの}と^とい^いふ^ふは^は只^{ただ}嘘^{うそ}此^こ中^{ちゆう}此^こ実^まの^の一^{いっ}事^じ
ハ^ハ身^{みん}体^{たい}を^をも^もお^おや^やつ^つぬ^ぬし^し。安^{やす}を^をあ^あつ^つて



見よこし。たぬきくはことおのめことさハ
 口とく河房らうけきと。目と送
 てましく思へも。さきハ妓屋のほかに
 形とく。とかく美実情あうき妓ふ
 出合とハ。あつとも重あつた。あは合となんありる

つれく瞬川田屋



炎



つれく瞬川田屋



花ハさうりに酒ハ青とのおもむのふ
 ちりも菊葉のさしひとの。焼味あけ水
 雑飲も折ふさきとさしに取てれいのさ
 ぎらべー。秋の夜水のさびりさおけ
 起むんの中折ふ酒の回たのんて。自
 料理場とうらひあがり。あうら。あうら。

丹丸

いままとくふり。人の母の酒の
七入ちりごんの酒も。さうくすさうておめい。さ
さいもある。さきごとを空後うらぐさなる
おろし。登新とんじんれくし。おろし。ちり。茶
漬つけひら。何ふもつねとひ。さき。に
宣海せんかいさ。の。海猪料かいしゆりょうと。ゆら。この。石いし
志しる。もの。茶屋ちやおも。ま。宛あふと。や。急いそ
有合うりあひ此。指さしを。平ひらに。朝あさの。海うみ境さかい。ま。ら。し。

か。海うみく。出でと。八はち。あ。ち。お。も。た。は。と。あ
下くだ心こころ。新あたらなり。て。ハ。ヤ。ぶ。も。の。お。ふ。も。茶ちやや
お。も。ん。ゆいりえ。か。り。し。し。と。て。瓶びん。ち。子こ。お。や。ま。も。
お。ま。り。に。茶ちや屋や。お。め。り。お。そ。て。ハ。色いろ。も。た。く
情なさけも。何なにも。す。い。だ。お。く。れ。が。あ。ん。と。い。だ。
何なにも。れ。ぬ。の。ま。茶ちや地ぢ。か。す。か。さ。め。の。ま。ま
ふ。有あて。こ。と。こ。の。れ。た。の。し。ひ。も。ぬ。う
う。り。ぶ。さ。あ。ハ。粒つぶ。は。ら。ま。り。約やく束そく。れ。ど。ん

ハきくごまらう子。糸苗を拵て居て。あ
との掃除してり。ゆるやう小す。ハ何まり
おるべし。さきとせきどしてち切なる金出
し。糸を御すれど。真更い。何れもい。ぬ
か。か。して。ゆる。も。す。こ。い。や。し。祓。と。を。さ
ま。も。あ。れ。て。な。ま。を。ど。陸。分。来。う。い。て。あ。う
長。つ。て。や。ら。が。申。瞬。そ。を。も。ま。ま。と。惚。ぬ。け
と。お。り。よ。て。の。仕。内。す。う。ハ。い。ぬ。ぬ。め。の。う。た。ご

何事も時折れ僅小ますすべし。こよひ
ハ。あ。ら。び。来。る。で。あ。ら。よ。と。待。て。い。る。時。ハ
い。と。ど。小。お。り。今。兼。ハ。ち。こ。こ。来。さ。る。ま。い
と。か。と。一。付。て。居。る。あ。く。風。と。淫。も。さ。じ
後。の。ま。ゆ。も。ま。づ。も。う。ま。ゆ。が。よ。し。新
そ。む。か。い。し。と。ハ。志。々。祓。バ。な。う。と。お。り。お。る
申。ハ。志。々。ぬ。く。や。も。よ。し。す。し。し。お。り
宵。て。ゆ。く。が。お。も。し。ろ。い。もの。と。か。く。女



國風集

こけりますと。いふ夢のくやうきしや
あんやもまた何たもつこと。ふふおのしめ
水が流ひ。信りてわく初めぬ色の
流行なすたらあむし

何事もあまきよのそを志さりさむ
しはちよこしよ時作歌も雲小持
慶小千よりさむ。唱弁やさくし

へも風流なり。あま世にやうしハ
大いとおつ嫁じやの牡丹餅じやのこさ
まくの拙さ唱弁やさくし
ハ。松やしく。長歌短歌海留利ま
もむし。の作。いふおり。流くし
藤子れ茶をまが。流るもい
ハ。さし中。さむ。さし。や。おのハ。後
者の能名しひさぐり。海留利さりの

海留利

鳴よは。イヤ横塘のふーハおりーらいの飯
を又ハうけがの串ドヤのと所あとも
おーて此夢禱かりと免ふもと耐の人ハ
イヤ慶子ドヤのうまいのと建中湯此菜
何ーらい。又八南油とりなごのりハ
分此言まお何と能信作此味
せーもおーむーの人のごうまされ
かうとあさきハ今棟の何ふどしーい。

しい酒のむりーらなごハもつぐ一丁
入るいーやさ詞小化といつと瞬なる言
をひハわつ川と瞬ふあごは。其外占傍
いろく者て清この息子免ける。新をの
丁推免る。金を席ハ襦の名をさーは
ごよ。魚いさいハ何家の寺よや。その類み
ちくく入てこれとまおが。かごうら
ブー。やうさい。替えまふいよはまをうらな

ど妓藝子れはから。先禮邊喚なども
女の情ふゆゑもどくれもいむべし。笑星
ハ愛比もやく一月と寝て。果木の流
行ふおろくと。古人のいひもさる事
ぬるべし。上人とえりバ。輕山のみい東山
迎の和尙換るんとおもひれやう。短い時
織さしたる。いもたら。さきどお合点ぬる
ある。でぬいといふと。年といひるゆとおもひ

おやまこと妓の事とおまふさし。ハう秀
さもゆりまん

月をふくそそやくさむものねむ。ゆる人
の茶屋むらりおり。ろさるものハあ。ド
といひ。ふ。又。獨。飯。箱。し。そ。ゆ。り。さ。ま。れ
と。ゆ。り。そ。ひ。し。も。さ。し。さ。き。さ。さ。め。く
れ。好。く。育。て。愛。小。妓。を。縁。は。か。し。ふ

ついでに
ついでに

治席も没^{たえ}と。其^{その}うへに小娘^{こむすめ}をいもの八^は派^はを世^よや
と。幸^{さい}乃^の子^ことや。清^{せい}女^{にょ}細^{さい}言^{ごん}此^こをい
げふさる事^{こと}もや。是^{こゝろ}はさういもの河^かの由^{よし}なる
べし。此^{こゝろ}さしにたまたものハいつも小^こ折^せり
茶^{ちや}此^{こゝろ}れり。合^あてにぬららハ味^{あじ}ひしき
薄^{うす}沈^{しん}不^ふ漬^{じき}の薄^{うす}沈^{しん}さしひ茶^{ちや}の湯^ゆら
の茶^{ちや}れ湯^ゆ識^しま。おまじさるハさしき。其^{その}
乃^のとさるぬなり。当^{とう}世^{せい}瞬^{しん}なるあさる

ついでに
ついでに

小^こ幸^{さい}乃^の子^ことまが。いやがり。や強^{きやう}一の
い中^{ちゆう}にもの。心^{こゝろ}でもん。さかろ。さるら
人のいや。小^こ幸^{さい}乃^の子^これは。い。い。ち。ふ。い。や
こ。お。ま。が。あ。る。う。う。の。い。ひ。ら。げ。て。野^のせ
が。首^{くび}あ。つ。く。瓶^{びん}リ。よ。が。平^{ひら}意^いあ。の。か。ま
く。ぬ。半^{はん}。去^さぬ。う。ま。く。の。た。い。こ。持^{もち}ハ
お。わ。く。茶^{ちや}。蘇^そ。云^い。小^こ通^{つう}。一^{いっ}。能^{のう}好^{こう}。は。能^{のう}の
ら。好^{こう}。一^{いっ}。書^{しよ}。相^{さう}好^{こう}。は。学^{がく}文^{ぶん}。ぬ。し。勿^な論^{ろん}

幸乃子

心之記

らひ。物つて幸乃子もすけじまこ
おも〜詠いよの。すづく持びとつよと
こハ我討殺グオ一あれど何事もうら
こときして。出とぐれが茶登れすひ。た
いこもちもあまねがと手。全族茶やで
高とぐつろ。静か申とこのむハ生徳
人かろふもよろべとせむ。強て備らふ
もゆ〜。ま川。あは愛まれ。幸乃子

心之記

此あ〜ぬ苦。あまらばさやくら〜う安
房ふら〜あそぶがせく。一すさ記ハ
嘗も月表も。かよひてせ〜る。眸の川
さよこ。院湘日表東流。吉とお人も
い〜でなさい

ふれく眸の川表之西後

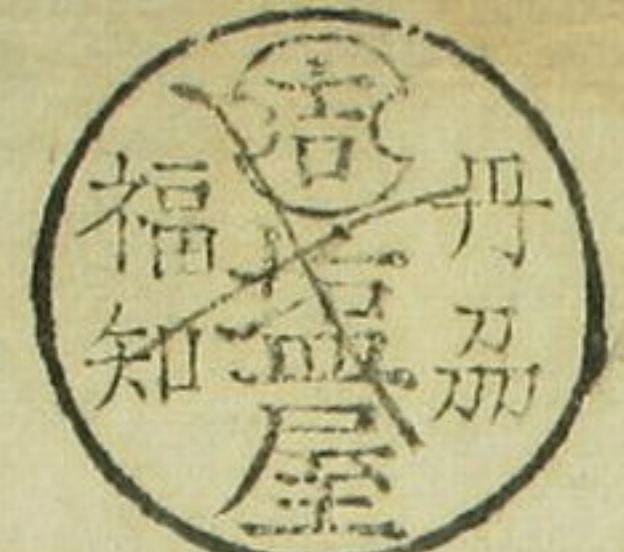


おは

おは



Handwritten text in a cursive style, possibly a letter or a record, written vertically from right to left. The text includes characters like 'おは', 'おは', and 'おは'.



つれく癖心草

Main body of handwritten text in a cursive style, written vertically from right to left. The text includes characters like '女の', 'おは', 'おは', and 'おは'.

おは

ものあり。さうもどで長款じとらひさ
おとおもゆらば。六候きんがの生がこ
まりハ。二候慈暮あてや免。八候とごた
の候やとづむハ。四候どごうくわあそく
すまじやも。志車中居が附合て。こ
くここちんハ。殿達の車ーや。達者小
あうて可愛らしいやう。とらいうりまて
のーおーいひあー。身がらり音たさう

しん。こんどの物あさうひこのとをや
しそけいひりまでも下小あうを。何の
りしもぬい法仲ふまで。さんの字付
ての。ま。ゆりがたものいやふ下略と
むさひひいぐるも。これあ曲家のんて
らまじやう。又義をまぬ。とらるあ
も。ちもとらけれま地。系ゆれらるゆ
おあまきての。一口二口ハ。一與もぬる入

けせと。おありは手あも憚ど。付代
その、三候目の切。あ方此摺へ手と
て。ちととかさうらうハ。さりとては家の
どくぬりの。さとしひながる。降留利。三
弦ハえ茶屋の乃をぬれハ。故て笑ふ
るさふもゆらげ。ずんち我癒えがしセ
たいらて。茶屋の庄敷での轆を轆人
物ぬい脱付で。テレチンホウくたせらハ

あまりぬる所合やう。熱して一取巻
かへけるも。ぬるとハんてくれのいやさを
程とて。すう。画公何るあは。妓
所持の扇ごよう。まさす。心
とんせささるさやくハ。臺所の火用
口の灯籠とまこころ。奉此とてくれ
おまのぬてくれ。生無法ハ喧嘩
えてくれ。おまカハ角カとて

舞子

二

くまるとん。香らしくありおんてくれハ。鉛
細工の七ツ乃具とたう。一。琴。深あるの
んてくれハ。け。一。袋の凡入と放るん
押る。おんてくれハ。山といふ家と名小
法け。中。う。れ。て。くれハ。朝日。日。和。と
鉢。ふ。一。函。公。阿。の。こ。や。く。ハ。疾。病。の。書。生
さ。お。し。く。是。成。ん。て。くれ。く。人。相
ず。さ。ぬ。あ。ハ。心。此。節。と。う。て。や。め。て。是

と見てくれとん。仕。お。れ。ん。て。くれ。は
庄。友。小。立。遊。鞠。の。う。て。くれハ。庭。小。り
葎。僧。折。地。何。う。り。成。細。細。と。水。を。馬
系。祇。蓮。所。と。か。け。る。漢。学。者。の。ん。て。く
と。ハ。掛。物。の。漢。字。と。よ。み。和。学。者。は。て
くれハ。懸。書。此。か。ぬ。け。ひ。と。あ。け。号。よ
こ。ハ。撥。帛。紗。と。よ。う。て。ん。て。くれ。と。し
担。号。作。ハ。云。弦。鼓。の。う。う。に。と。終。書。て

辞のり

是^んは^んて^る色^とに^は相^言師^のの^まゑ^に
と^んせ^らる^も能^潜師^のの^おめ^こひ^も
い^づも^んて^れと^うめ^きに^は其^外の^藝
め^る人^ハ是^様の^内陳^切り^もと^をけ
り^て。是^もも^もて^る色^の一^つと^んさ
を^も見^える^もゆ^くの^中に^は尚^世ハ^首と
矣^めり。系^屋の^亭に^は茶^の湯^のこ^の
白^くの^女房^が生^花好^を屋^乃隠^居が

例^年初^尚に^は説^法の^不修^をま^せい
づ^もよ^さ申^すに^は似^くる^方ハ^んて^れの
名^利小^落。又^何も^の小^島子^か
ど^かか^つて^と品^めの^藝に^はや^り。た^だ
下^他お^仕ら^とと^眸と^ん得^る藝^をハ
き^んと^しや^んと^らか^と存^識ハ^ん
い^{でも}銀^金の^華に^は勝^たず^とも^あら^ん
百^あく^つづ^の烟^草と^は標^白と^は流^石

ハ切きりの方かたてまけきむりけぬやう
 さのこむも男おとこりぬ瞬しん合あえむむ妓かハ
 一い福ふくううぞうぞうさいさいががせせののいいろろ何なにららい
 ぐぐややいいままもも名な深こほふふおおりりととくくくくくく
 たたのの踏ふみぞぞののここぞぞりりぬぬ櫻おう花な里り志しりりががん
 湯ゆ一いてもても東とう辺へんのの借か屋やハハ石い借かととおお人ひと
 ののいいまま一い先さきももぐぐりりいいんんととががくく河か赤せき
 子こ信しん居いととううややみみ助すけ当あととままららううののて

ききしし里り小こ敷敷ををささをを繩ひ手て志し意い境けい所しよ
 のの小こ男おとこ初はつ見み世よももいいばば一いくく名な深こほのの茶ちや屋や
 知ち者しやのの妓か子こ掛かたたふふさされれまましし思おもひひ付つとと
 手て付つ茶ちや屋やももささのの志し意いとと細こええもも当あ合あ
 ハハおおきき一い語ごりりれれどどだだんんくくどど火かががままりり
 たたののここおおちちりりおおちちりりととりりおおハハ回まわりり友ともはは踏ふままいい
 申まをららつつととのの男おとこおおままももたたくくみみをを一いおお持もてて
 ううくく女めをを房ふもも日か和わ射しや着がのの女めをを喧けん嘩か

法ほひひハハ何なに所ところ目めととややらら能よくく住すまむむ所ところととも
そのそのおおりり。そのその根ねねね罪つみカカくくてて配はい所ところの
月つき見みててさいさいででハハああるるすすいい、

筆ふでとととりりててハハおおかかんんととととががりりのの青あお樓ろう
街まちとと通とほりりててははももててんん中ちゆうととおおももふふととや
後あと小せう納なつ涼りやうのの筆ふで笑わらハハ余よおおみみななむむびびのの水みづ
ああささららひひ石いし垣かきははななららずず學がくのの大だい派はい能よくく

二に階かいととにに輝かがやくく。川かわ端はたのの水みづ榎えのはは教くわう
ののおお焼やく煙えんとと思おもふふもも。ここのの筆ふでかかししここ子こ
物もの高たか似に舞ま舞まののりり。踊おどるるををははららるるののりりたた
くくああまま。遊あそぶぶののりりとと。引ひくくららあありりああまま
ととききららててくくささハハ新にい妓ぎああせせのの持もちとと蘇そ
ちちてて口くち三さん弦げんとと何なにららふふ。毛け車ぐるまハハ團だんはは
持もちくくああららささ。中ちゆう居いハハ砂すなとと多たくく。香かをを
ががひひんんれれおおととちちややららりりののちちとと。迦あま漢かんはは

舞まひひののりり

こみふりけし。牽^ひ及^び解^けぬ^くと^も。汗^{あせ}の
おほひ。櫛^{くし}者^{もの}此^{こゝ}より。いつも^もも^も英^{えい}妙^{めう}
さる^るハお^おし。ま^まと^と何^{なに}所^{ところ}と^と細^{こま}細^{こま}なる^るあ
ハ細^{こま}長い^い毛^け路^ぢと^とさ^さぐり。行^い能^ね一^{いつ}つ^つふ^ふ
新^{あたら}の^{しん}赤^{あか}あ^あが^がさ。此^{こゝ}迄^{いた}り^も後^{あと}日^ひは^は
奥^{おく}写^{しゃ}ハ^ハ店^{みせ}あり^りた^たつ^つと^とう^う。二^{ふた}階^{かい}ハ^ハ
浴^ゆの^のヤ^ヤく^くそ^そく^く是^{こゝ}を^を取^とり^りは^は春^{はる}の^のそ^そう^うあ^あ
身^みと^とう^う此^{こゝ}に^に遊^{あそ}ぶ^ぶ子^こが^が。延^{のび}鏡^{かみ}と^と出^でて^てく^く奥^{おく}と

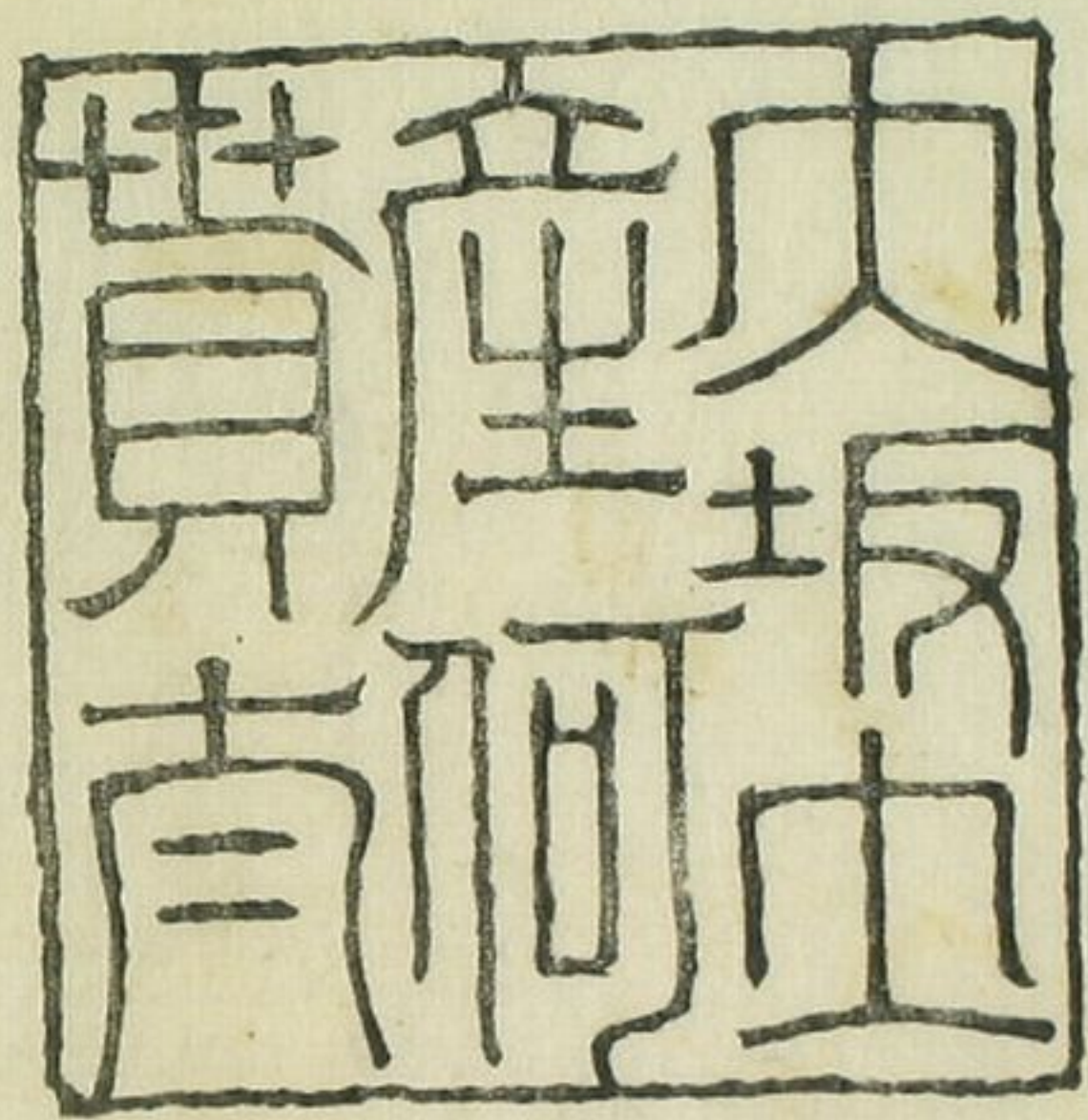
あ^あを^をは^は。赤^{あか}日^ひ戸^とは^はは^は。彩^{いろ}造^{ぞう}の^の色^{いろ}妓^ぎ々^々紙^し
燭^{そく}して^{して}廁^{せう}と^とた^たづ^づ子^こ。門^{かど}口^{ぐち}小^こ二^{ふた}人^{にん}乃^の
稀^{まれ}あり^り。毛^け車^{ぐるま}が^が接^あ接^あも^もそ^そこ^こく^くふ^ふて^て。ま^ま
二^{ふた}階^{かい}の^のお^おり^り。一^{いつ}と^とま^まと^とま^ま。中^{ちゆう}連^{れん}子^しの^の
あ^あが^が。里^{さと}の^のり^りの^のり^り。遠^{とほ}あ^あが^が。色^{いろ}と^と。床^{とこ}の^のり^り
て^て灯^{とう}籠^{かご}二^{ふた}張^{ちやう}。湊^{みなと}川^{がは}の^の仕^し。込^こ者^{もの}二^{ふた}三^{さん}種^{しゆ}。小^こ女^め
ら^らが^が。砂^{すな}の^の柝^{たたく}子^こゆ^ゆけ。窓^{まど}ご^ご。小^こ鳴^なお^おじ
る^るえ^えの^のん^んあ^ある^るも^も。奥^{おく}の^のり^りと^とお^おく^くら^ら

紅圍ベニイロのたのしみも。ついでに愛小一人活いさなの
窮きゆう届とどき。仰おほい三折さんせつあ清きよの心をひふと船
し。えもまうせかきり色いろバ。はか夜よさうして
の物もの成なりり。あうらぬ死し金かねとは。かくふ
折せつとやひつらん。早はや見みをよ金かねハらぬ死し
の。つよ金かねと。生なま金かねハらぬ死し。若わかふ祝いわ又
ハ唯ただの悟ご満まんは合あ生なま死しの境さかいハ何なにもあかり
持もびふも紋もん口くちのけぬり何なにそび。悟ごまはらん

まやく持もび。相ああううのまけぬま持もび。妓ぎ
のそそろきあそび。いぬらくのころりさせあ
そびやどい。います。め悟ごく。何なにもハ淋しみし
る。兼あぬど。ちよと海うみ合あて持もびを中なかり志こころうち
ハ。ちと瞬まかつてや。しやまをど。おあど金かねと
ほふぬら。うぬら。が。してほら。し。や。か。ら
そそろき。した。黒くろ白しろちぢひ。ま。ま。と。生なま金かね
もあつて。ま。は。は。は。ぬ。の。死し金かねは。つ。も。ひ。バ

いもだんふ
くわを

浪華 耳鳥 寫



找れ川ふぬあほれど。あふむてる。
えんどうもいもど。且天竺ふあまの川。
地獄は清うづ川。それいそみえもをし。
世の附合いう找の川。掬美舟の川の川。
肉のうすいハヤの川。それる水鳥よ
似く水辺やうはふす。化浪よす
川をあれ。瞬川いふ。み川いふだ。

どろろと... 當も... 決志... 人... 配く... 人... 思わく... 川...

海... たる... 艶好法師... 徒然... 今... 川... 婦...

一五

一五



ちまらしくたふれぬ酔のぐあひ
 一邨の肝。ふれどこの性根なり
 と。非我いふ。
 あのあこころ記ふの妻

ちまらしくたふれぬ酔のぐあひ
 一邨の肝。ふれどこの性根なり
 と。非我いふ。
 あのあこころ記ふの妻



天明三年卯正月

京都書林

大坂心齋橋筋久宝寺町

塩屋七比助

京数寄屋通幅茶屋下ル所

右膳屋助之清

日三京通由少路西入所

小橋宗左衛門

